

平成25年度第4回教育研究評議会議事要旨

日時	平成25年7月19日（金）15時30分～16時51分
場所	大学本部2階大会議室
出席者	佛淵学長，瀨口理事，岩本理事，福本文化教育学部長，平地経済学部長，濱崎医学部長，林田工学系研究科長，渡邊農学部長，諸泉全学教育機構副機構長，稲岡附属図書館長，遠藤教養教育運営機構長，後藤医学部附属病院副病院長，甲斐評議員，畑山評議員，大島評議員
欠席者	中島理事，宮崎理事，中島評議員，大田評議員，永田海洋エネルギーセンター長
陪席者	川上監事，増子評価室長，古川キャリアセンター長，宮島同窓会長他

○ 前回議事要旨について

学長から，平成25年度第3回教育研究評議会議事要旨（案）を評議員に送付，確認したところ，加除・修正等の意見はなかったため，原案のとおり確定し，ホームページに掲載している旨，報告があった。

○ 審議事項

1. 学生の懲戒について

瀨口理事から，理工学部学生の「児童買春，児童ポルノ禁止法」違反に関する懲戒の案件であり，審議いただきたい旨の発言があり，次いで林田大学院工学系研究科長から補足説明があり，審議の結果了承された。

2. 学生の懲戒について

瀨口理事から，理工学部学生と農学部学生の非違行為に関する懲戒の案件であり，審議いただきたい旨の発言があり，次いで林田大学院工学系研究科長と渡邊農学部長から補足説明があり，審議の結果了承された。

3. 国立大学法人佐賀大学学生支援室設置規則等の一部改正について

学務部長から，面倒見の良い大学を目指して修学に悩みや困難を抱える学生の支援充実のため，学生支援室に「集中支援部門」を新設し，専任の教員を配置したい。また，学生支援室に副室長を置くことで既存部門との横断的な業務を行いたい旨の説明があり，審議の結果了承された。

なお，この件に関して学務部長から，文部科学省から毎年調査されている「障がいのある学生の修学支援に関する状況調査」については，体制が整ったものとして回答させていただくとの補足説明があった。

4. その他

特になし

○ 報告事項

1. 平成26年度概算要求事項について

財務課長から、組織整備、特別経費等について、次いで、企画管理課長から、設整備費関係の要求事項について説明を含めた報告があった。

2. 平成25年度教育改善支援経費選定結果について

瀬口理事から、一般公募、委託公募について、基準をもとに選定した旨報告があった。

3. 全学委員会等の審議状況報告について

瀬口理事から、全学委員会の審議状況について報告があった。

○ 意見交換

・「面倒見の良い大学」を目指すための就職活動支援

学長から、今回の意見交換では、－「面倒見の良い大学」を目指すための就職活動支援－をテーマとし、意見をいただきたい旨の発言があった。

次いで古川キャリアセンター長から、「就職率の定義と現状理解」「全学での就職支援に関する問題点と解決策」について説明があった。

就職内定率について、学校基本調査による就職内定率は、就職志望者の内定率となっており、就職内定者を卒業生から進学者、社会人及びその他不明者を引いた数で割ったものをいうこと。本来の就職内定率については、分母は卒業生から進学者及び社会人を引いた数であり、この就職志望者の内定率と就職内定率の差を縮めることが望ましい姿である旨の説明があった。

また、就職支援の解決策の案として、就職委員のミッションの平準化と学生への口頭での細かな情報伝達や指導が必要であること、講義などを通して、自分の専門分野を理解させ、社会との繋がりを意識させる必要があるなど、出口での面倒見を良くするための施策としての案等が提案された。

それを受けて、各学部長及び大学院工学系研究科長から、より詳細な資料での状況を確認したいとの発言や佐賀大学OBとの連携を広げることにより、社会との繋がりを強くし、キャリア教育に活かしていきたいなどの発言があった。

また、学長から、就職試験で使用されるSPI（適正検査）などの対策の必要性や同窓会等での若いOBとの繋がりも大切であるとの発言があった。

次いで、遠藤教養教育運営機構長から、全学教育機構とキャリアセンターが連携して、アクティブラーニングの充実を含めたキャリア教育を行っていただきたいとの発言があった。

最後に甲斐評議員から女子学生に対してのキャリア支援を行っているので、ご利用いただきたいとの発言があった。

なお、次回の意見交換は、「教育改革について－教育改革の取組事例－（仮題）」として行うことが確認された。

以上